

ぼくも父のように

羽月西小学校 五年 上園 智也

ぼくの父は、福祉関係の仕事をしている。そして、地いきのお助け隊の隊長もしている。

「地いきお助け隊をやりませんか。」

父は、伊佐市のいろいろな人に呼びかけて回っている。十年以上前から人を集め、今では羽月、羽月西、針持、曾木、平出水の六つの校区から約三十名が引き受けてくれたとのことだった。困っている人を助けるためとはいえ、これだけの人数を集めた父のことを、ぼくは、そんけいしている。

地いきお助け隊は、「ワンコ隊」と呼ばれている。犬のワンコではない。一時間あたり五百円。つまり、「ワンコイン」のワンコだ。ぼくは、この名前がおもしろくて好きだ。

「困っている人のために地いき中をかけ回るのなんて、無理。」と思う人もいるかもしれない。でも、大丈夫。ワンコ隊のモットーは、「できる人ができることをできるだけ」なのだ。この言葉をモットーとするなら、普段いそがしい人でも、安心して活動できると思う。

伊佐市は高れい化が進んでいる。調べてみたところ、伊佐市の六十五歳以上の人口の割合は、約四十一パーセントだった。一人暮らしのお年寄りの人数も多いはずだ。

ワンコ隊は、そんな人のために、どのようなことをするのか。その仕事内容は様々だ。庭の草かりや、そごみのはいき、しょうじはりやあみ戸のしゅう理などをすることもある。これらの仕事はお年寄りには大変な作業なので、とても感しゃされているらしい。

では、父の隊長としての仕事は何だろう。気になって聞いてみた。すると、

「まず、注文を受けたコミュニティの人が下見に行って、作業量を確認するんだよ。そして、その情報が隊長に届く。隊長はその情報をメンバーに伝えて、人数や役わりを分たんするんだよ。」

と教えてくれた。

隊長がいるから、注文が届いてから作業までがスムーズに進み、ちょうどよい人数のワンコ隊がはけんされるのだ。あらためて、父のことを「すごい」と思った。ワンコ隊はお年寄りの方々にとってヒーローだと思うが、ぼくにとっては、父が最高のヒーローだ。

学校の授業で、「地いきの方々のためにできることをしよう」という学習があった。地いきの方にインタビューをしたところ、ある方から「庭の草とりをしてほしい」という声があった。ぼくたちは学校からスコップを持って行って、一生けんめい草取りをした。暑くて汗びっしょりになったけど、作業後に、「すごくきれいになりました。ありがとう。」と言っていてとてもうれしくなり、父の気持ちが少しわかった。

小学五年生のぼくにできることは少ない。でも、仲間と力を合わせれば、困っている多くの人を助けられる。ぼくは、ぼくたちは、だれかのヒーローになれるのだ。